



Press Information

VPR05-005

2005年1月17日(月)

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 株式会社

フォルクスワーゲン レース トゥアレグがダカールラリーで総合3位に入賞

2005年1月16日(ウォルフスブルグ発): 四半世紀という年月を経て、1980年にドイツの自動車メーカーとしてパリダカールラリーで初優勝を果たしたフォルクスワーゲンが、再びダカールラリー(正式名称テレフォニカ・ダカール2005)に新たな記録を残しました。

ユタ クラインシュミットとファブリツィア ポンズの女性コンビは、世界一過酷な砂漠ラリーで TDI ディーゼル エンジン搭載のレース トゥアレグを駆り、総合3位で表彰台に上がりました。フォルクスワーゲンは4回のステージ優勝と、ラリーリーダー4日という成果を残し、レース トゥアレグの高性能ぶりを実証したのです。

「フォルクスワーゲンの歴史的な成績にも、モータースポーツ監督のクリス ニッセンが統括してきたチームメンバーの仕事ぶりにも喜んでいる。2004年はまず完走、そして今年は表彰台に上がることが目標だった。一年の歳月を経て、レース トゥアレグは信頼性とスピードがアップしたばかりでなく、優勝できるマシンに仕上がっている。車両のステップアップぶりは4人のワークスドライバーが身をもって披露してくれた。」と、ダカールの首都セネガルでゴールを見守ったフォルクスワーゲンの取締役、Prof. ヴィルフリート ポッケルマンは語りました。

砂漠で繰り広げられた闘いには12台のワークスカーやその他のトップカテゴリーの車がしのぎを削りましたが、フォルクスワーゲンチームはユタ クラインシュミット/ファブリツィア ポンズ組、ブルーノ サビー/ミシェル ペラン組、ロビー ゴードン/ディルク フォン ツィツェヴィッツ組と、ユハ カンクネン/ユハ レポ組の計4組で挑み数々の素晴らしい成績を残しました。

ゼッケン 310: ユタ クラインシュミット、総合3位

1月5日には、自力で総合3位。2001年ダカールラリー優勝の実力者は11日にはステージ優勝を果たし、他に3番手のタイムを2回連続してマークし、表彰台の一角を確かなものにした。

「フォルクスワーゲンチームに初めて参加した時には、まだ実績のない無の状態からスタートしたので、とても感慨深い表彰台だった。でも、今はライバルと肩を並べて競い合える。チームメンバー全員が1日目から熱心にプロジェクトを進めてくれたし、スタート早々から良いイメージと結果を見せられた。まずロビー ゴードンがリーダーとなり、次にブルーノ サビーが取って替わり、最後に私が表彰台を確保した。3位以内への入賞というのが目標だったから、全てが順調に行って本当に嬉しい。」

ゼッケン 307: ブルーノ サビー、総合5位

1993年にダカールを制覇しているブルーノ サビーは、モーリタニアを走るステージ6でトップに立ったものの、次のステージの砂丘越えとその後発生したトラブルにより10位まで順位を落とす。ステージ12以降、総合5位まで挽回し、更にステージ14と15は2番手のタイム、次のステージでトップタイムをマークし、昨年よりも1ランクアップの5位でラリーを完走。

「私は今回のラリーを、クルマの競争力をテストする場と捉えていたが、フォルクスワーゲンはこの一年で大きく進歩したし、クラインシュミットの3位は素晴らしい成績だ。色々な経験もできたし、かなり順位を落としたのに5位まで挽回できたことにとても喜んでいる。」

ゼッケン 317: ロビー ゴードン、総合 12 位

フォルクスワーゲン チーム初参加。12 月 31 日にバルセロナの海岸で行われたステージでトップタイムを皮切りに、2 日間にわたってラリーリーダーに。その後 2 回目のステージ優勝を記録し、第 4 ステージで再び首位の座へ。舞台をアフリカに移し、ラリーの第 6 日目にダカールラリーの新人は起伏の激しいコースの犠牲になり、横転して 8 時間ものタイムロス。この時 101 位まで順位を下げるがクルーは不屈の精神で、総合 12 位でラリーを完走すると共に、後半はチームメイトを何回もサポート。

「良いラリーだった。バルセロナへ向けてドイツを出発する時に、私は優勝したいと宣言し、これを実行しようとペースを上げた結果アクシデントを起こした。後半はチームプレーに徹し、クラインシュミットのサポートをして更に順位は落としたが得るものも多かった。5 日前には落ち込んだ気分で、早くアメリカに帰りたいと思っていたが、今はまたダカールラリーに参戦し、今度こそ優勝したいという気持ちになっている。」

ゼッケン 313: ユハ カンクネン、リタイヤ

世界ラリーチャンピオンのタイトルを 4 回獲得しているユハ カンクネンは総合 6 位でスタート。1 月 6 日にズエラットからティチットまでを走るマラソンステージで岩に乗り上げ、サスペンションとドライブシャフトを破損し、50 位まで後退。その後 2 本のステージ走行で 39 位まで順位を上げたものの、ブルーノ サビーのサポート役に回る。しかしステージ 10 で横転し、レース トゥアレグは修理可能だったものの 2 本目のマラソンステージを考慮して、チームの力を集中させる為、リタイヤの判断を下した。

2004 年の 1 月以来、2 回のダカールラリーを含み 5 戦のクロスカントリー ラリーに出場してきたレース トゥアレグは、通算して 11 回のステージ優勝と 8 回のラリーリーダーを記録したことになります。世界一過酷な砂漠でのラリー総合 3 位という成績は、そうした記録に更に花を添えることになりました。

フォルクスワーゲン モータースポーツ監督、クリス ニッセン:

「レース トゥアレグにとって、まだ 2 回目のダカールラリーだというのに、非常に良い成果を残せた。とても満足している。チーム全員が最高の仕事をし、クルーも全員良く走ってくれた。車輛のエンジニアリング面でも進歩は大きく、TDI エンジンは 2.3 リッターから 2.5 リッターとなり、パワーは、260 馬力と 29 馬力もアップし過酷な状況の中を走りきった。今後、更に戦闘能力を上げる為に、これからの 11 ヶ月をかけて開発を行っていく。ただ、モータースポーツでは最後の仕上げの段階が一番難しい。」

最終成績(暫定):

順位	ドライバー/コドライバー	車 輛	合計タイム (2 位以下はトップとの差 時分 秒)
1.	ステファン ペテランセル/ジェアン-ポール コットレット	三菱パジェロ エボ	52:31.39
2.	ラック アルファード/ジル ピカード	三菱パジェロ エボ	+27.14
3.	ユタ クラインシュミット/ファブリツィア ボンズ	フォルクスワーゲン レース トゥアレグ	+3:22.00
4.	ジニエル ドゥ ヴィリエ/マリー ラルキン	日産ピックアップ	+4:02.36
5.	ブルーノ サビー/ミッシェル ベラン	フォルクスワーゲン レース トゥアレグ	+8:44.14
6.	ナニ ロマ/ヘンリ マーニュ	三菱パジェロ エボ	+9:19.37
12.	ロビー ゴードン/ディルク フォン ツィツェヴィッツ	フォルクスワーゲン レース トゥアレグ	+21:03.27

フォルクスワーゲン グループ ジャパン 広報部

安達 tel. 03-5575-7382、相澤 tel. 03-5575-7392 vw-pr@vgj.co.jp

<http://www.volkswagen-press.jp> (プレス専用サイト:未登録の方は下記新規登録用 URL から登録してください。)

http://www.volkswagen-press.jp/run/press/registration/pr_new.jsp (登録 URL)

お客様お問い合わせ先

フォルクスワーゲン カスタマー センター tel. 0070-800-551133